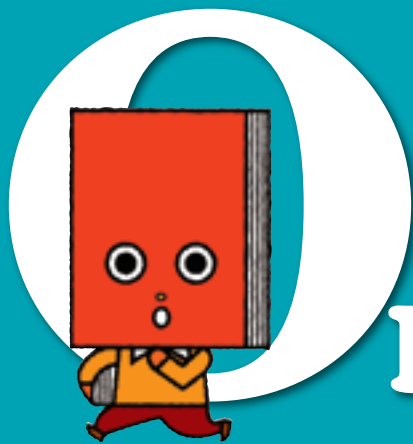


Contents



PUL

No.17

—岡山県立大学附属図書館—

2016年12月発行

- ◆ リユース市開催
- ◆ 英語文献利用講習会を開催します
- ◆ ビブリアバトル

特集 **イスキー**
キャラクターデザイン 高橋宏明さん

- ◆ 学生スタッフによる図書館紹介
 - * どんなことをしているの？
 - * 学生スタッフの声
 - * 学生スタッフのおすすめ本

◇ リユース市開催 ◇



11月5日(土)、図書館でリユース市を開催しました。リユース市とは、重複や改版等により不要となった図書や雑誌を有効活用していただくため、低価格で販売する催しです。学外の方を中心に多数ご来場いただき、たいへん賑わいました。また、当日は大学祭の初日ということもあり、様々な方が来館され図書館をご利用いただきました。



お知らせ

英語文献利用講習会を開催します 2017年1月 ～データベース ScienceDirect の活用を中心に～

エルゼビア社のScienceDirectを使って、英語文献の検索や、HTMLフルテキスト、図表、関連情報などの活用方法を学びます。文献管理ツール(Mendeley)の使い方も紹介します。講師はエルゼビア・ジャパンからの派遣です。

* ScienceDirectは科学・技術・医学・社会科学分野の電子ジャーナルを搭載するフルテキストデータベースです。本学では、約800タイトルのジャーナルを契約しています。オープンアクセスジャーナルも多数収録されており、ぜひ活用していただきたいリソースです。

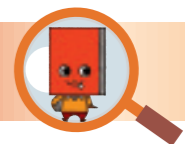


日時 2017年1月20日(金)
15:00~16:00
場所 8211教室(学部共通棟南2F)
申込 図書館カウンターまたは指導教員へ
対象 学部生、院生、教員
定員 25名程度
※詳細は図書館ホームページをご覧ください。

◆ ビブリアバトル ◆

11月5日(土)の大学祭初日、図書館のエントランスでは、Okayama Bookwormsによるビブリアバトルが開催されました。





◆イスキーとは？

図書館内やホームページに度々登場しているこのキャラクター。皆さんは目にしたことがあるでしょうか。イスキーは、図書館のイメージキャラクターです。2009年に学内で募集し、応募数24作品の中から選ばれました。デザインは、当時デザイン学部在学中だった高橋宏明さんです。

◆キャラクター紹介

本学図書館イメージキャラクター

イスキー

- 性別 男
- 血液型 とっても几帳面なA型
- 趣味 もちろん読書、図書館で勉強
- モットー 図書館で飲食なんかしない



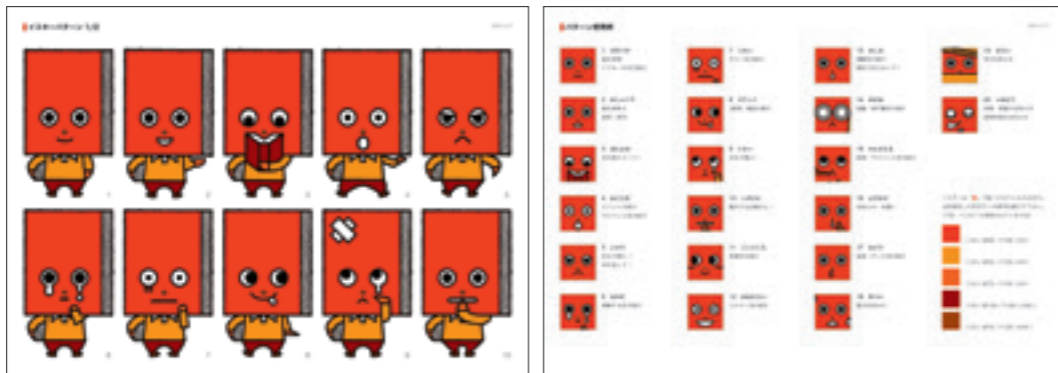
岡山県立大学附属図書館を愛してやまない、読書好きの男の子。小説や雑誌、百科事典など、種類を選ばずあらゆる本を読む。(もちろん「OpuL」も毎号かかさず読んでいる。)
図書館での読書や勉強はもちろんだが、何もせず、ぼーっとするのも好きらしい。
図書館が県大生の憩いの場になる事を願っている。

◆イスキーの歴史

| | | |
|--------|-----|--|
| 2009年度 | 5月 | イメージキャラクター募集開始(学内のみ) |
| | 10月 | 応募締め切り、応募数24作品の中から職員で5作品を選出 |
| | 11月 | 図書館専門委員会で投票の結果、高橋宏明さんの作品「イスキー」が選ばれる 図書館報「OpuL4号」でデビュー |
| 2010年度 | 5月 | 新パターン20誕生 |
| 2011年度 | 12月 | イスキー制作者 高橋宏明さんよりオリジナルポストカードの寄贈を受ける |
| 2016年度 | 7月 | イスキー制作者 高橋宏明さんよりオリジナルブックカバーの寄贈を受ける |
| 現在 | | ホームページに図書館報、その他掲示物にと活躍中 |

◆パターン

※画像は高橋さんより



◆イスキーグッズ

これまでに登場したイスキーグッズは4種類。ポストカードの一部とブックカバーは、高橋さんが作成されたものです。



現在配布中！
カウンターで
手に入れてね！

キャラクターデザイン 高橋宏明さん——イスキーの生みの親

イスキーの生みの親である高橋さんは、現在、デザイナーとして活躍されています。在学当時、イスキーのデザインを応募されたときのことを語っていただきました。また、ボツになったカラーバリエーションなど、内部資料も見せていただきました。

◆プロフィール



1988年・岡山県生まれ。
岡山県立大学(デザイン学部 造形デザイン学科)卒業。
東京都世田谷区在住。
ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ 24th (2014) 入選。
ブルノ国際グラフィックデザインビエンナーレ 25th (2012) 入選。
日本タイポグラフィ年鑑 2012/2013/2016 入選。
コンクラー・デザインコンテスト2011-12 佳作。

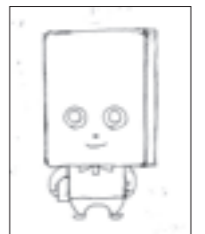
◆イスキーのこと

図書館のイメージキャラクター募集が始まったのは、私が3回生の頃でした。グラフィックデザインに対し、やっと真摯に向き合い始めた頃だったと思います。同時に、今でこそほとんどやらなくなりましたが、当時はイラストを描くのも好きでしたので、キャラクターデザインというのはデザインとイラストのふたつが肝要ですから、喜んで出品したのを覚えています。

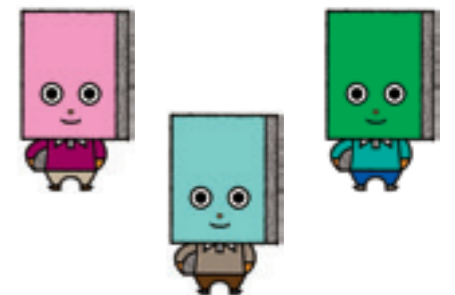
イスキーをデザインするにあたり、最も注意を払ったのは「普遍性」です。カッコつけずに言うと、「みんなに愛される」キャラクターです。流行に沿ったりインパクトのあるものは話題には富みますが、一過性に終わることもままあります。どうせなら長く使って欲しいし、見た人を不快にさせるようなものには絶対にしなかったため、今の姿形に落ち着きました。あと、アイコン的な用途も視野に入れていたので、できるだけシンプルな造形に、というのも考えていたと思います。そういった狙いが運良くうまくいったのか、私が社会人になってもイスキーは活躍を続けてくれているようですが、これはどちらかという、使ってくれる人、つまりは図書館職員皆さまの努力の方が大きいかなと思っています。

自分がつくったものが長く使われることほど、デザイナー冥利に尽きることはありません。イスキー誕生から7年(!)。これからも10年20年と、未永く愛されて、どんどん貴族をつけていって欲しいですね。頑張れ、イスキー！！

ラフ画



カラーバリエーション(ボツ案)



◆近況・仕事紹介

私は2011年の大学卒業後より、東京の下北沢にあるデザイン事務所「room-composite」に在籍しています。アートディレクター・グラフィックデザイナーのカイシトモヤと前川景介を中心に、CDやエディトリアル、イベントのロゴなど、様々な案件のアートディレクションとデザインをしています。最近ではアニメや声優さんに関わるお仕事が増えています。(詳しくは、<http://www.room-composite.com>をチェックしてみてください！)

また、休みの日には自主制作をし、コンペに出品したり、イスキーのグッズを勝手につくったりしています。こちらは仕事というよりは、ほとんど趣味のようなものですね。(個人サイト <http://takahashi-hiroaki.com/>)



ほかにも…在学中に高橋さんが携った刊行物



「酔の健康レシピ：酔っきり爽快!!」
山下広美著
岡山県立大学地域共同研究機構監修
大学教育出版、2011.6
(開架 596/YA)

著者(現館長)から一言

本書は、デザイン学部の山下明美先生と学生さん達にご協力いただき、完成しました。お酔を使ったレシピの他、健康に関連したコラムも盛り込んでおり、高橋さんにご担当いただいたコラムの挿絵は本書のほのほとした雰囲気にとりあがり、とても気に入っています。

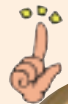


どんなことをしているの？

造形デザイン学科3年 築道泰地さん

図書館では、数多くの本がレポートの参考に、または物語を楽しむために読まれ、たくさんの方の手によって動かされています。学生スタッフはそんな「本の流れ」を整えるお仕事をしています。

つまり、①皆さんの求める本を探し出し②貸出・返却された本を管理し③本を棚の正しい位置に戻す、という一連の「流れ」を円滑にして、利用者さんが気持ちよく図書館を利用できる環境を保つことが私たちの仕事なのです。また他にもエントランスホールの新聞の整理、本の修理、掲示しているポスターのイラストも学生スタッフのお仕事です。IT専門の学生スタッフさんもあり、パソコンの管理や修理、アップデートといったIT全般に関する仕事もあります。このように、学生スタッフの仕事は利用者さんにより使いやすい環境を提案し、お手伝いすることです。なので、もし図書館で見かけたら、お気軽にお声がけください。



学生スタッフの声

情報システム工学科4年 坪井勇樹さん

楽しいことがたくさんあります！仕事を通じて、知らなかった本を見つけることや、いろいろな人とコミュニケーションをとることができます！また、利用者の方の質問に答えられるように準備したり、書架の整理や掃除をしたりと、自分の意識次第で



図書館をより利用しやすい環境にすることができる、とてもやりがいのある仕事です。



造形デザイン学科3年 三宅梨沙さん

一番楽しいことは、今まで出会ったことのないような面白い掘り出し物を見つけられることです。電動書架の中を覗いてみれば、大正時代に刊行された本が。DVDコーナーを覗けば、授業で紹介されたような作家の映像集が。普通に図書館を利用するだけでは気づけないような、そんな楽しみがあたり一面に広がっています。皆さんも一度図書館に遊びに来てください。驚くような発見があなたを待っているかもしれません！



* 学生スタッフのおすすめ本 *

『彼女がエスパーだったころ』

宮内悠介著 / 講談社 NDC8 : 913.6

スポーツシステム工学科3年 長谷川大地さん

本作は7つの短編からなるSF小説です。語り手である記者の視点から、様々な超常現象取材していく形式で構成されており、



非日常的な現象から、人類を再発見していくことをテーマにしています。SFではありませんが、世界観は現実世界にとっても近く、小説内で起きる出来事にもリアリティが感じられ、いろいろと考えさせられます。ど派手な展開はありませんが、じわりと感動できる作品ばかりです。ぜひ読んでみてください。

『夜と霧 ドイツ強制収容所の体験記録』

V.E. フランクル著 / 霜山徳爾訳 / みすず書房 NDC8:946

情報通信工学科1年 森康治さん

この本は、文字通りドイツ強制収容所について書かれています。



この手の他の本と違うところは筆者自身が強制収容所に収容されていたところです。奇跡的に生還できた筆者が、地獄と呼ばれたドイツ強制収容所で何を見て、何を感じたのか。そして筆者が考える「人生」とは。今を生きる私たちは、過去に起きた惨劇に一度しっかりと目を向けなければなりません。

『「いき」の構造：他二篇』

九鬼周造著 / 岩波書店 NDC8 : 701.1

造形デザイン学科3年 鶴峯江利佳さん

日本独自の美意識、「いき」について九鬼周造が哲学的に考察した本です。『「いき」ってあれだろ、えっと…』という言葉が詰まっ



てしまう人におすすめします。「いき」のもつ構造と、「いき」を表す事象についての記述があり、「いき」という美意識がより深く理解できると思います。読み終えると不思議な魅力を滲えた「いき」に取り憑かれること間違いなし。



『天使のすむ町』

アンジェラ・ジョンソン作 / 富永星訳 / 小峰書店 NDC8 : 933

保健福祉学科3年 若泉勇望さん

主人公の女の子は毎日幸せに暮らしていた。家族とも仲が良く、



楽しい生活だった。あるとき一人のおじさんから手紙をもらった。そのおじさんとは会ったこともなく顔も見たことがない様子だった。後にそのおじさんが実の父親だとわかり、現在の家族は偽物だと気づく。その嘘の家族に戸惑いと怒りをぶつけてしまう女の子。この物語は本当の家族とは何か気づかせてくれる本である。